

## 夢をその手でつかみ取れ ～「第26回西高祭」～

今年は藤田千寿さん（2年）が考案した「『友笑輝』～夢をその手でつかみ取れ～」をテーマに「第26回西高祭」が10月5日に開催されました。

各クラス、系列、部活動が趣向を凝らした西高らしい企画を立案し、生活福祉系列では生徒たちが授業で制作した、力作揃いの作品を展示したほか、生物資源系列の生徒らが西高農場で愛情もって育てた野菜や、今年初めて採取したハチミツなどを販売しました。また、教室内を廃墟となった病院のように装飾し、ミッションをクリアする等のブースも設けられ、そこからは悲鳴？が響き渡っていました。

会場となった校舎内には家族連れも多く、小さい子ども達の楽しそうな笑顔もとても印象的で、生徒たちも思い出に残る西高祭にしようと準備から運営までを手掛け、沢山の来場客と接する中で生徒たちの姿も満足気にイキイキと輝いて見えました。

大盛況に終わった第26回西高祭では生徒一人一人が「ゆうしょうき」をその手でつかみ取ることができました。



## 貴重な就農体験 ～進路選択肢の一つとして～

生物資源系列の2年生は9月27日に、県山本地域振興局が主催するアグリセミナーに参加しました。今回のアグリセミナーでは(有)大和農園（代表大塚和浩）、朝場畜産（代表朝場重明）、(農)轟ネオファーム（代表高橋裕）にご協力頂き、4名ずつに分かれて従業員の方々に指導を受けながらインターンシップ研修を行いました。

J Aあきた白神園芸メガ団地内にある(農)轟ネオファームに、様子を伺いに行くと黙々と出荷調整、箱詰め作業する4名の姿がありました。研修に参加した伊藤柚希さんは「ねぎの選別作業に気を使いながらも、従業員の方々のスピードについて行くのに必死です。」と教えてくれました。また、「卒業後、地元能代での就農を考えていて、ねぎ栽培に興味があったのでここでのインターンシップを希望しました。」と教えてくれた生徒もおりました。

高橋裕代表は生徒たちの働きぶりを見ながら「即戦力で頼もしい。将来、就農も視野にこれからの勉学に励んでもらいたい。」と話してくれました。

生徒たちはインターンシップ経験を踏まえて将来の進路選択に活かすこととなります。

